

総合計画アンケートの結果について

調査対象者:15歳以上の町民1,000人及び富士見町公式LINEの友達(3,030人5月4日時点)
調査方法:郵送配布及び公式LINEでのメッセージ配信
実施期間:令和8年4月30日～5月15日
回答数:784件

回答方法	件数	割合
オンライン回答	502	64.0%
紙回答	282	36.0%
合計	784	

町民確認	件数	割合
はい	753	96.0%
いいえ	25	3.2%
空欄	6	0.8%
合計	784	

性別	件数	割合
男性	383	48.9%
女性	384	49.0%
その他	4	0.5%
空欄	13	1.7%
合計	784	

年代	件数	割合
18～24歳	16	2.0%
25～29歳	13	1.7%
30～34歳	23	2.9%
35～39歳	51	6.5%
40～44歳	58	7.4%
45～49歳	66	8.4%
50～54歳	92	11.7%
55～59歳	75	9.6%
60～64歳	71	9.1%
65～69歳	86	11.0%
70～74歳	75	9.6%
75歳以上	146	18.6%
空欄	12	1.5%
合計	784	

職業	件数	割合
会社員	190	24.2%
無職	143	18.2%
パート・アルバイト等	115	14.7%
自営業・事業主	111	14.2%
専業主婦・主夫	69	8.8%
公務員	38	4.8%
農林業(専業)	35	4.5%
団体職員	24	3.1%
学生(予備校含む)	4	0.5%
その他	20	2.6%
空欄	35	4.5%
合計	784	

婚姻	件数	割合
結婚している	579	73.9%
結婚していない	161	20.5%
空欄	44	5.6%
合計	784	

家族構成	件数	割合
夫婦で二人暮らし	251	32.0%
二世代同居(あなたと子)	213	27.2%
二世代同居(親とあなた)	94	12.0%
一人暮らし	81	10.3%
三世代同居(親とあなたと子)	45	5.7%
その他	35	4.5%
三世代同居(あなたと子と孫)	24	3.1%
三世代同居(祖父母と親とあなた)	5	0.6%
空欄	36	4.6%
合計	784	

家族構成2	件数	割合
いずれもない	173	26.2%
75歳以上の方	134	20.3%
65歳以上～74歳以下の方	95	14.4%
小・中学生	81	12.3%
要介護認定者	42	6.4%
障害者手帳所持者	41	6.2%
高校生	40	6.1%
保育園・幼稚園・認定こども園に通っている子ども	38	5.8%
就学前の乳幼児	16	2.4%
空欄	124	18.8%
合計	660	

住所	件数	割合
富士見地区	296	37.8%
落合地区	175	22.3%
本郷地区	110	14.0%
境地区	169	21.6%
空欄	34	4.3%
合計	784	

地区詳細	件数	割合
富士見区	100	12.8%
立沢区	61	7.8%
乙事区	49	6.3%
富里区	44	5.6%
瀬沢新田集落組合	37	4.7%
御射山神戸区	34	4.3%
空欄	34	4.3%
南原山集落組合	34	4.3%
高森区	30	3.8%
広原区	28	3.6%
桜ヶ丘区	28	3.6%
信濃境区	26	3.3%
葛達区	24	3.1%
富士見台区	23	2.9%
木之間区	20	2.6%
池袋区	19	2.4%
小六区	16	2.0%
烏帽子区	16	2.0%
田端区	14	1.8%
栗生集落組合	14	1.8%
富士見ヶ丘区	14	1.8%
塚平区	14	1.8%
原の茶屋区	14	1.8%
富原区	11	1.4%
若宮区	11	1.4%
先達区	11	1.4%
机区	9	1.1%
上馬木区	7	0.9%
富ヶ丘区	6	0.8%
松目区	6	0.8%
とちの木区	6	0.8%
富士見地区	5	0.6%
落合地区	5	0.6%
大平区	5	0.6%
瀬沢区	4	0.5%
下馬木集落組合	1	0.1%
境地区	1	0.1%
平岡区	1	0.1%
休戸区	1	0.1%
横吹区	1	0.1%
合計	784	

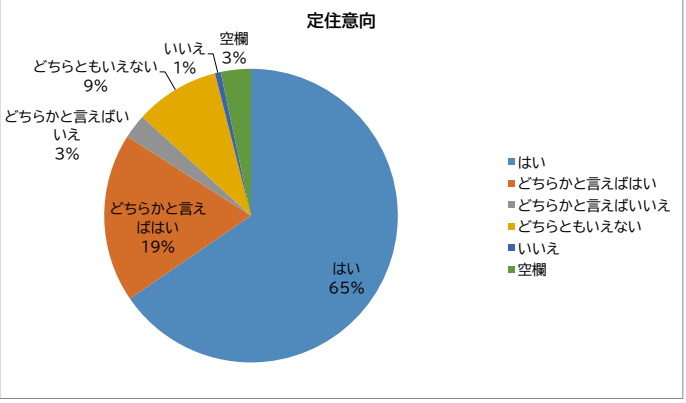
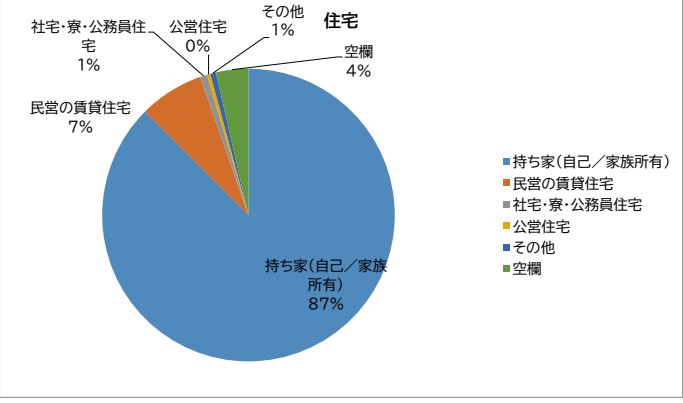
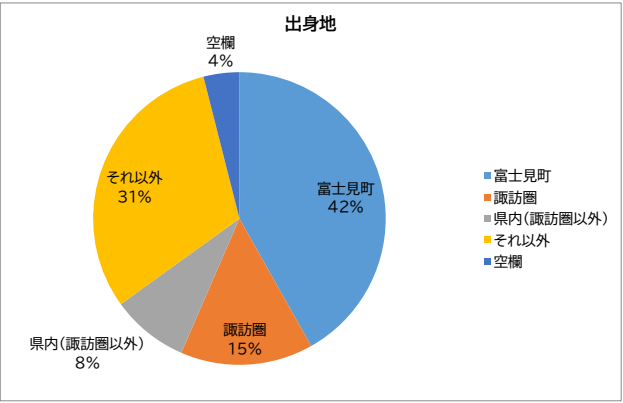
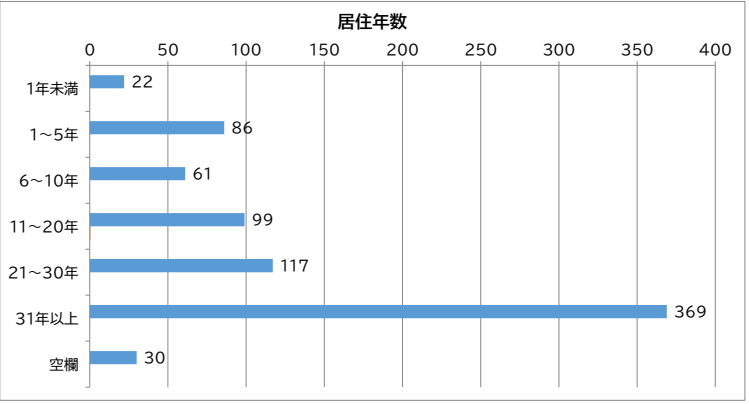
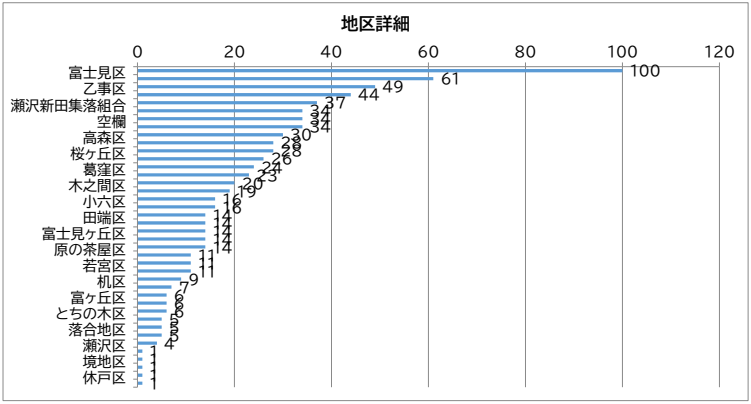
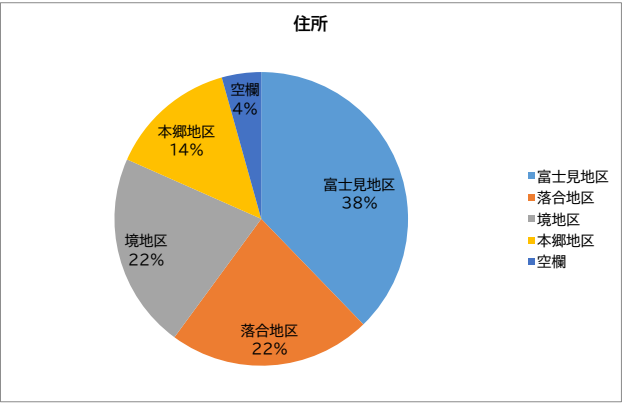
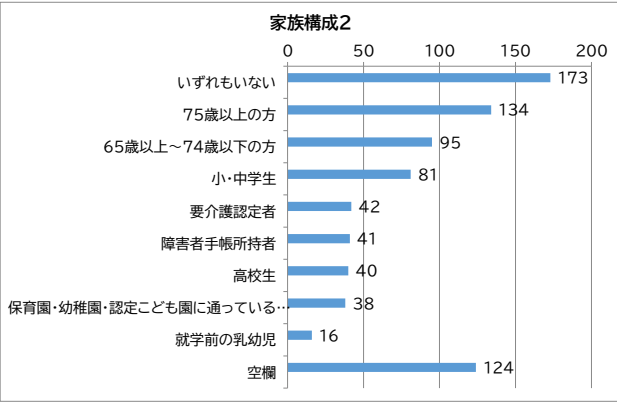
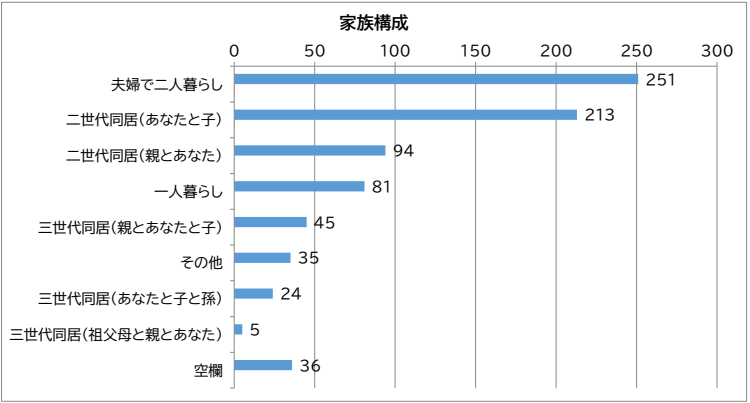
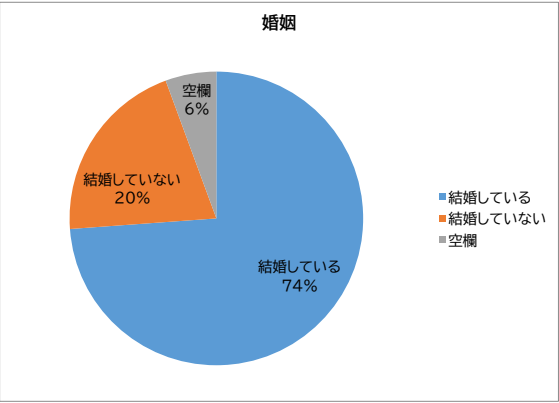
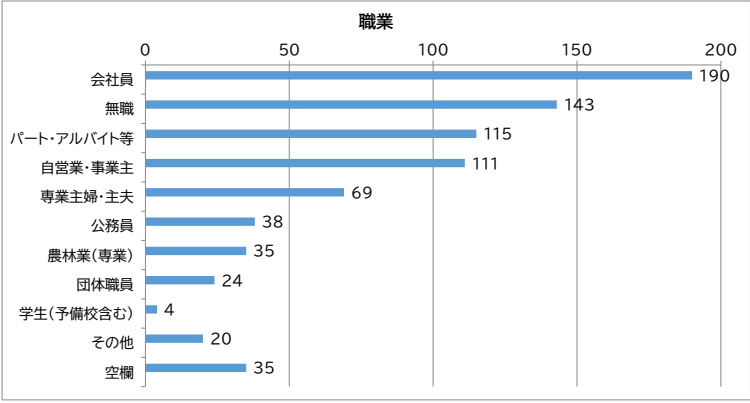
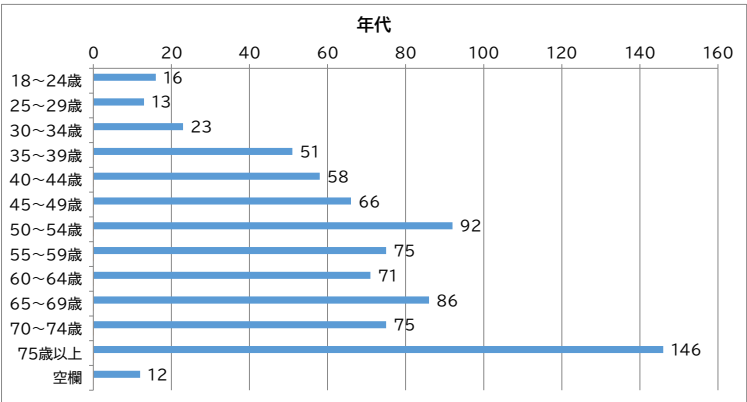
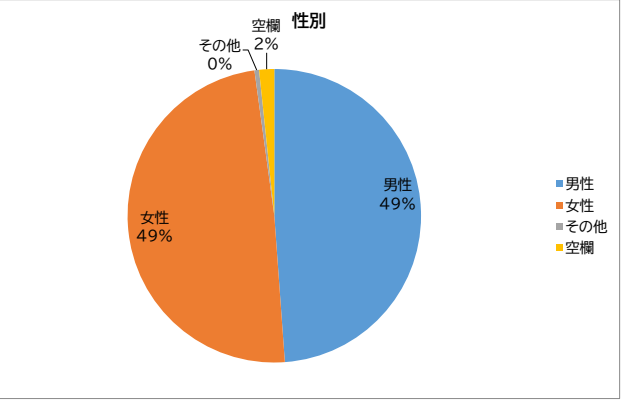
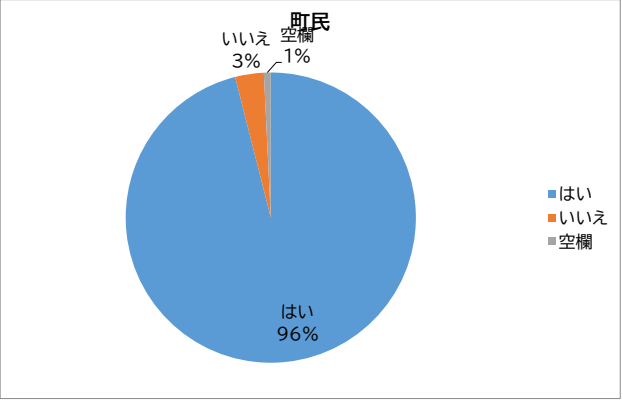
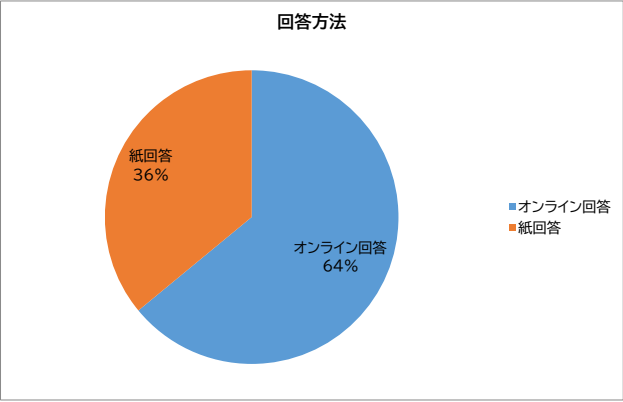
居住年数	件数	割合
1年未満	22	2.8%
1～5年	86	11.0%
6～10年	61	7.8%
11～20年	99	12.6%
21～30年	117	14.9%
31年以上	369	47.1%
空欄	30	3.8%
合計	784	

出身地	件数	割合
富士見町	328	41.8%
諏訪圏	115	14.7%
県内(諏訪圏以外)	67	8.5%
それ以外	243	31.0%
空欄	31	4.0%
合計	784	

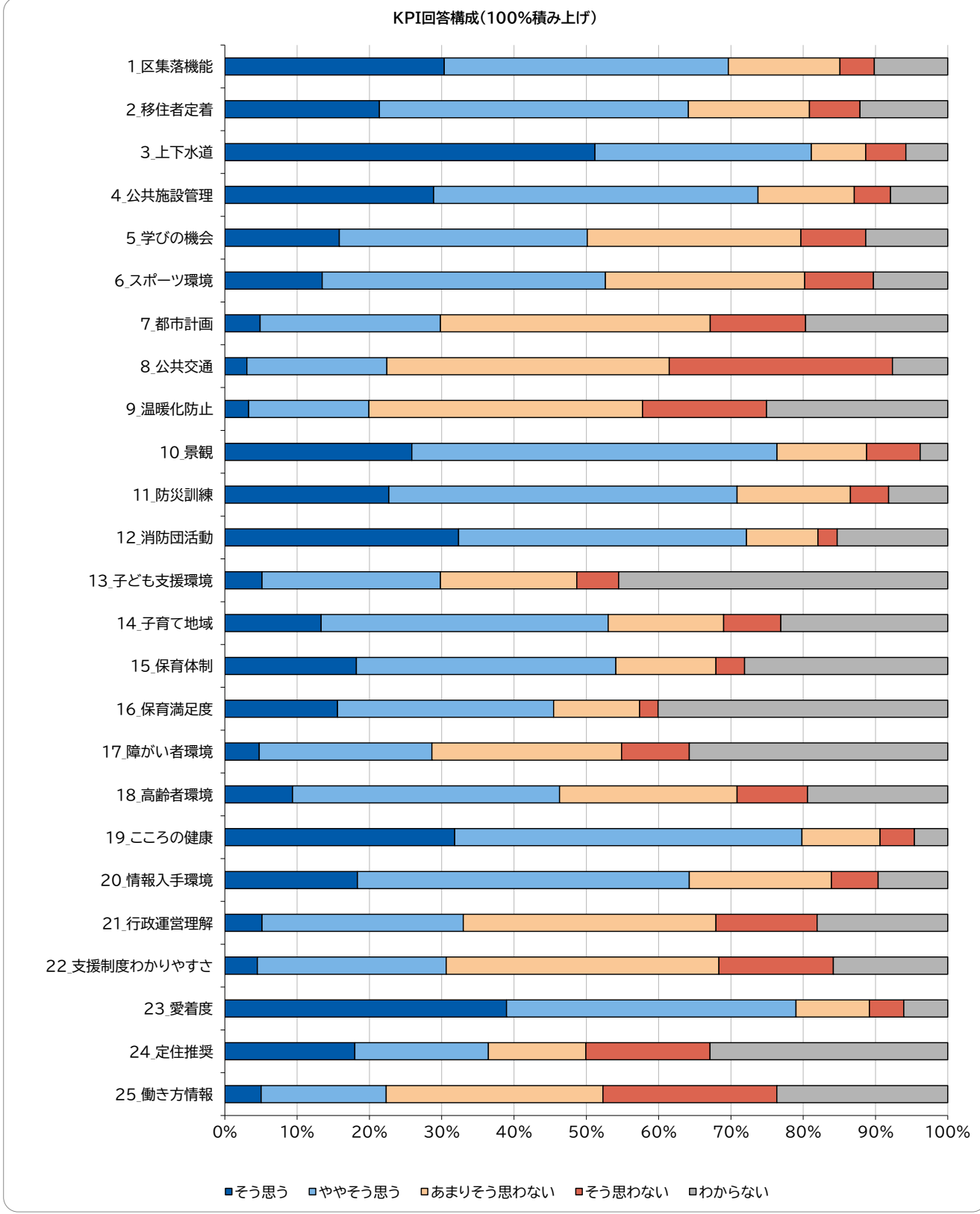
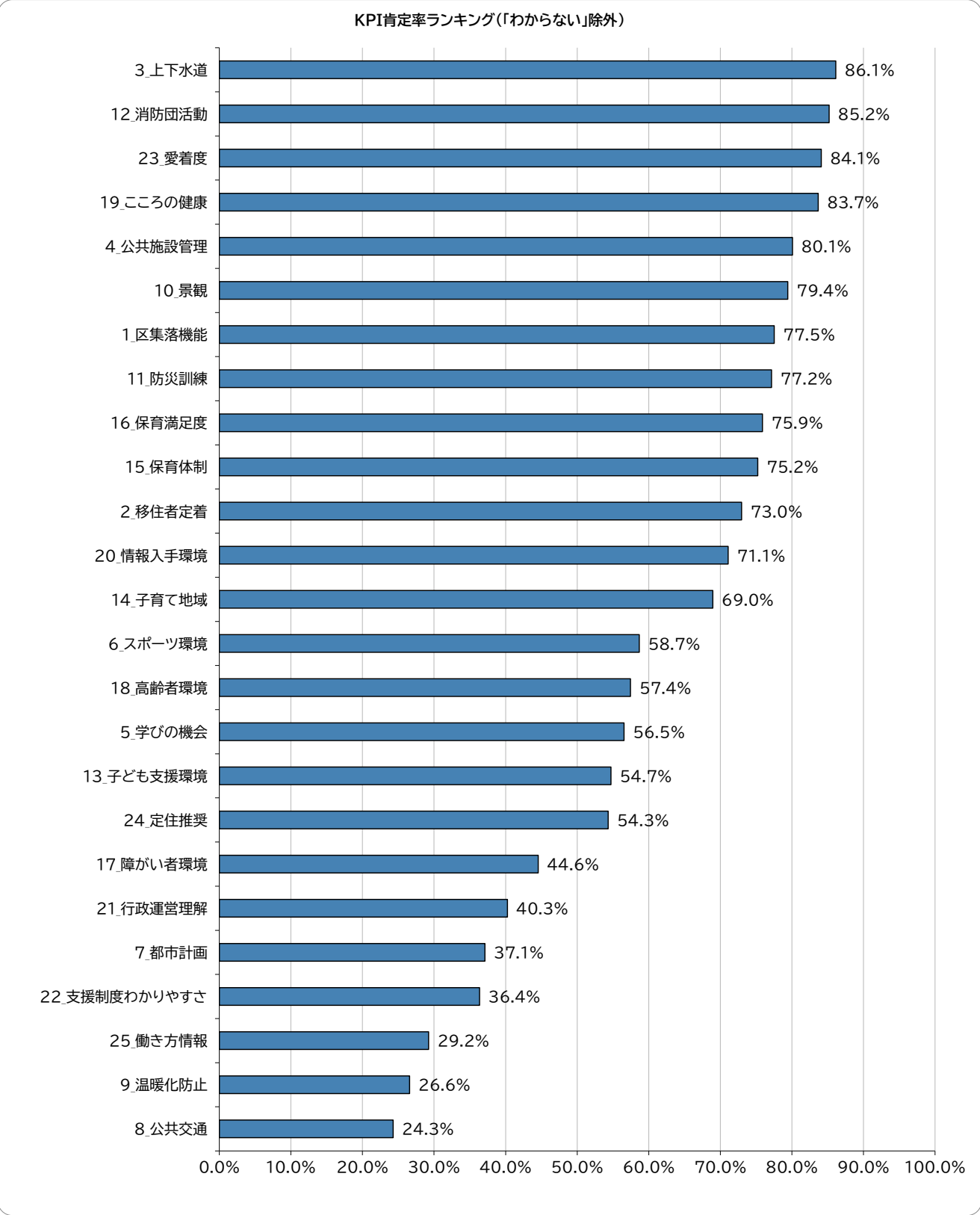
住宅	件数	割合
持ち家(自己／家族所有)	686	87.5%
民営の賃貸住宅	56	7.1%
社宅・寮・公務員住宅	6	0.8%
公営住宅	3	0.4%
その他	5	0.6%
空欄	28	3.6%
合計	784	

定住意向	件数	割合
はい	513	65.4%
どちらかと言えばはい	146	18.6%
どちらかと言えばいいえ	21	2.7%
どちらともいえない	73	9.3%
いいえ	5	0.6%
空欄	26	3.3%
合計	784	

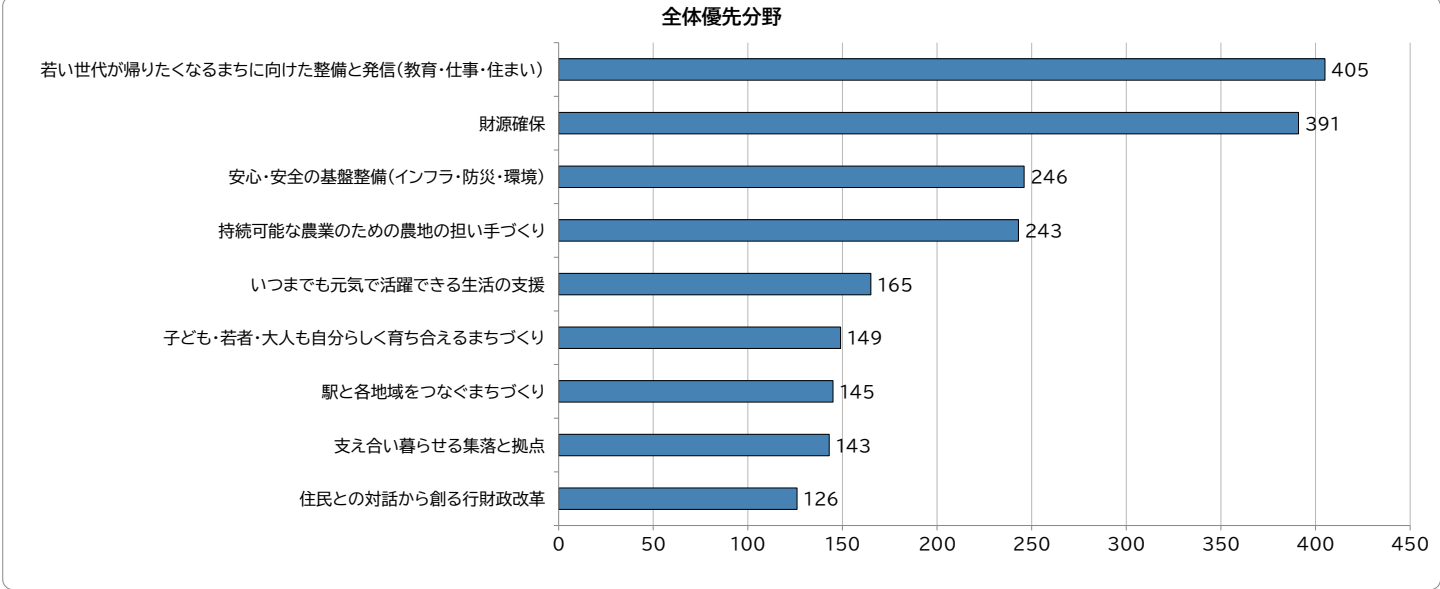
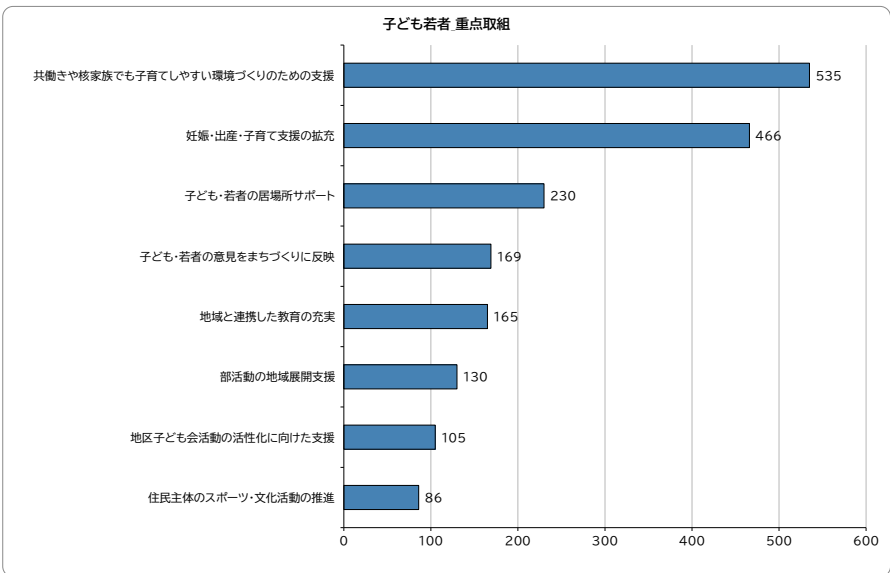
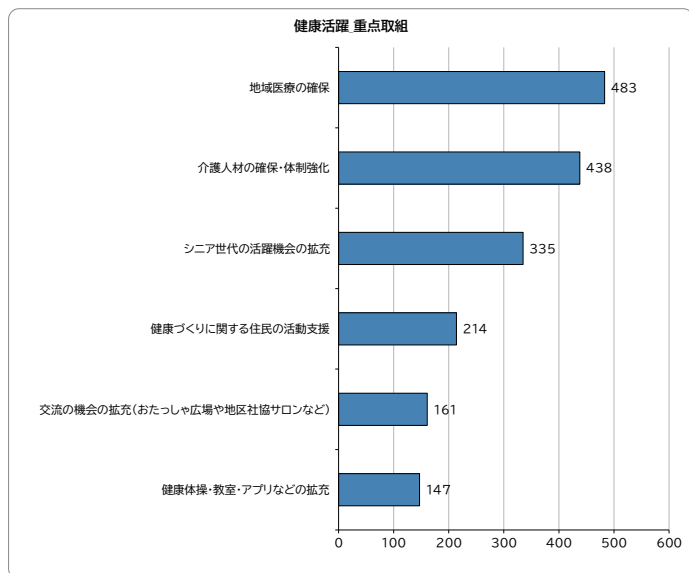
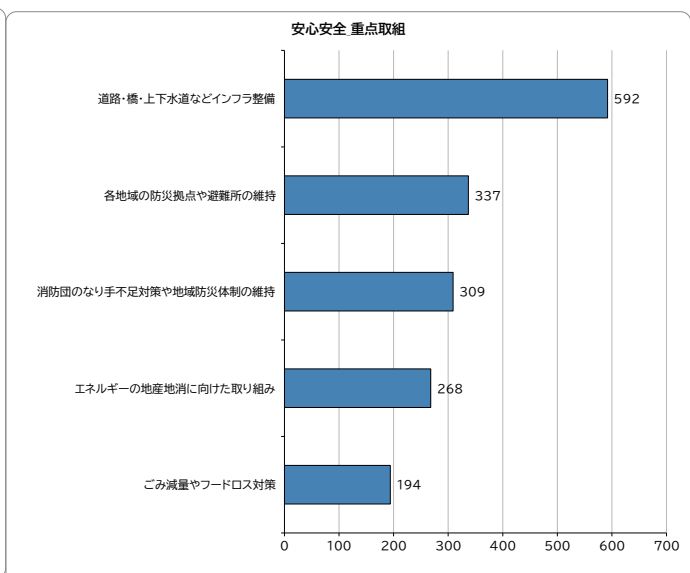
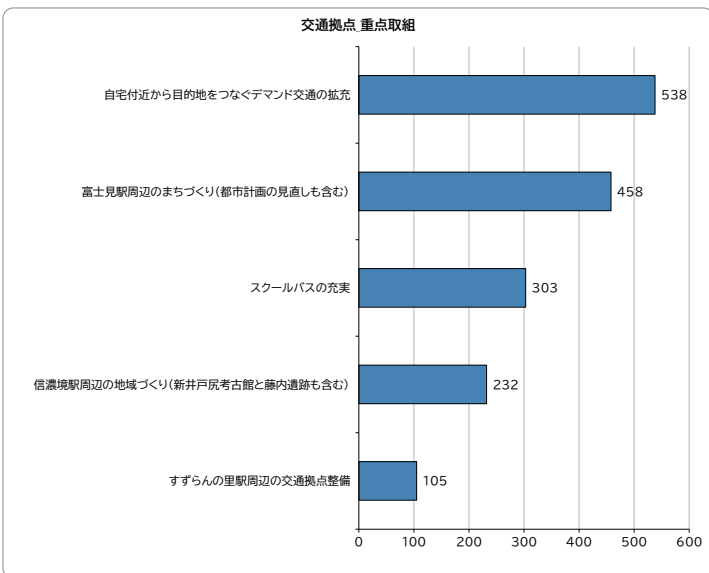
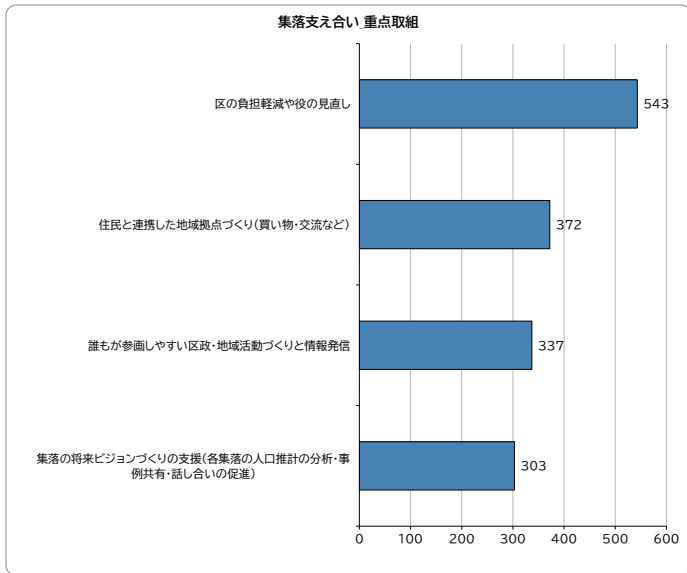
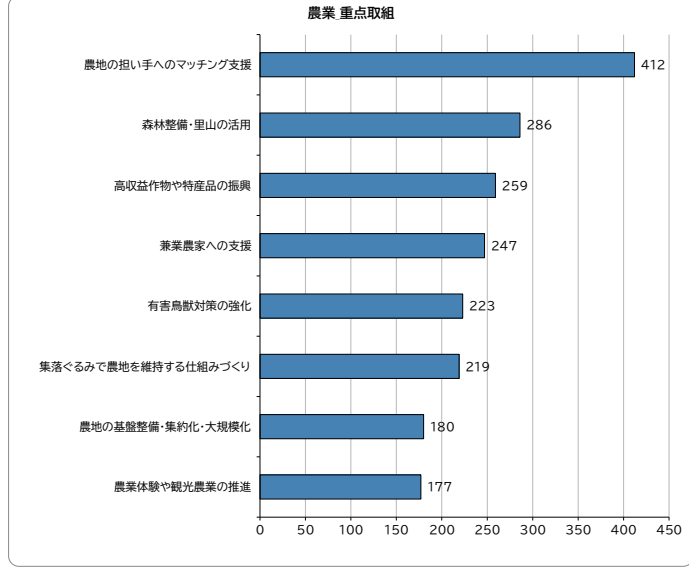
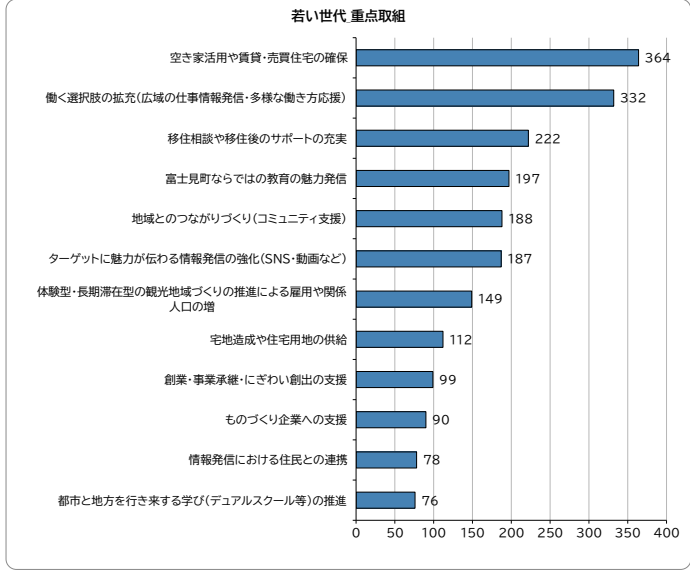
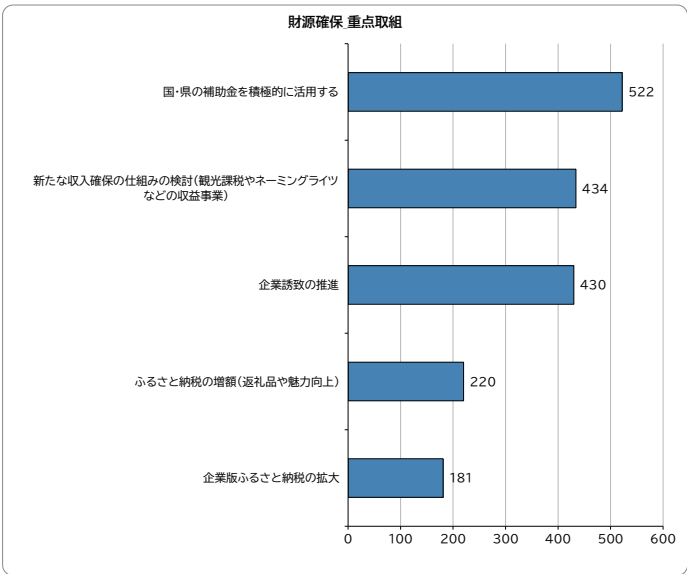
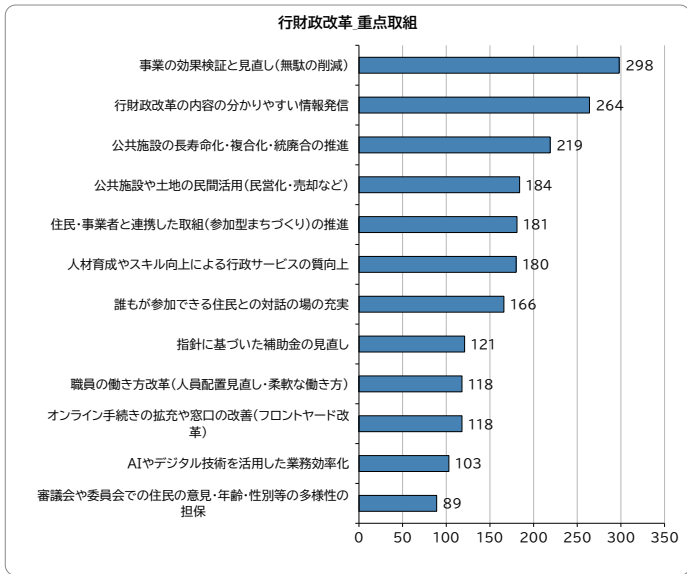
基本属性 グラフ



前期計画KPI達成度に関する回答



重点取組に関する回答(3つまでの複数回答)



Part A: 定住意向(理由)の分析

対象データ:424名分の自由回答

1. ポジティブ / ネガティブ / 提案 の3分類

分類	割合	主な内容
① ポジティブ(町の魅力・愛着)	約60%	自然・人・住み心地への肯定
② 消極的定住(他に選択肢がない)	約25%	持ち家・年齢・慣れ
③ ネガティブ(離れたい/不安)	約12%	不便・財政不安・分断
④ 提案・要望を含む条件付き定住	約3%	改善されれば残るという条件付き

【重要な発見】全体の約4分の1が「消極的定住」。家・親世代の事情がなくなった瞬間に流出するリスクを抱えている。

① ポジティブ(町の魅力・愛着) 約60%

【主な内容】

「自然・景観の素晴らしさ」が圧倒的1位の定住理由。次いで「人・コミュニティの温かさ」「東京とのアクセス・利便性のバランス」「住み慣れた愛着」が続く。

【代表的な原文】

- ・SHN-20「自然豊かで人も穏やか安心して暮らせる」
- ・SHN-49「八ヶ岳の麓で人生の後半を終えたい。自然と共に生活できて幸せ」
- ・SHN-73「星がきれい水が美味しい。最低限のインフラも整っている」
- ・SHN-232「都心まで近過ぎず、遠過ぎずの程よい距離」
- ・SHN-303「唯一無二な町です」
- ・SHN-673「リトル東京のようで住み心地がよい」

② 消極的定住(他に選択肢がない) 約25%

【主な内容】

「家建てた」「持ち家がある」「親から引き継いだ土地」「年齢的に動けない」など、積極的な町への評価ではなく、現実的制約による定住。富士見町の見えないリスクであり、家・親世代の事情がなくなった瞬間に流出する可能性。

【代表的な原文】

- ・SHN-23「家建てたので住み続けるしかないから」
- ・SHN-211「家建てたので、住み続けるしかない。他に引っ越したい場所もない」
- ・SHN-435「親から引き継いだ家、土地があるから」
- ・SHN-608「老い先が短い」
- ・SHN-721「今更どこに？あの世しかない」
- ・SHN-791「他に住む所がない」

【政策的含意】

このゾーンの住民は「町の魅力で残っているのではない」ため、子世代に引き継がれる保証がない。「家があるから住む」を「町が好きだから住む」に変える施策が、次期総合計画の最重要テーマ。

③ ネガティブ(離れたい/不安) 約12%

【主な内容】

「住み続けたいが将来不安」「行政・町政への不信」「コミュニティの圧迫感」「不便さ」「移住者・外国人問題への懸念」が主軸。

【代表的な原文】

<高齢期の生活不安(最大要因)>

- ・SHN-100「運転が出来なくなってからの生活が不便すぎる」
- ・SHN-493「老後で車を運転出来ない状況になったら、現在の場所では生活できない」

<行政・財政・町政運営への不信>

- ・SHN-76「町の財政や行政のあり方、社協の実態問題解決がなされない」
- ・SHN-150「町長が変わったらとても住みづらくなった」
- ・SHN-522「役場職員の極一部、パワハラまがいの事を…昭和から時代が止まったのか」

<コミュニティの圧迫感・分断>

- ・SHN-59「桜ヶ丘の自治会費が高すぎる」
- ・SHN-333「区費が異常に高く、会計報告もない…考え始めました」
- ・SHN-228「地区内のパワハラの言い方…よその扱い」

④ 提案・要望を含む条件付き定住 約3%

「〇〇が改善されれば住みたい」という条件付きの定住意向。
離脱予備軍であると同時に、改善で取り戻せる層。

- ・SHN-98「DX、大胆な改革を進められる町なら住みたい」
- ・SHN-197「行政サービスの質が低いと感じれば違う自治体に移ってもいい」
- ・SHN-419「気温が高くなれば標高の高い原村や北杜市への移住も考える」
- ・SHN-774「自然豊かで住みやすい。しかし買い物・公共交通の不便さが大きな負担」

2. 政策提言につながる「強み」5点

強み① ハケ岳・富士見高原の景観と自然環境(最大の定住要因)

【内容・含意】

最も多く挙げられた定住理由。観光商品化・移住PR・教育コンテンツとして活かす余地が大きい。
「メガソーラー等で景観を毀損する開発への規制」を望む声と一体で語られる点に注意。

【代表的な声】

- ・SHN-25「自然豊かで景色がきれいで穏やかに暮らせる」
- ・SHN-551「ハケ岳が気に入ったから移住した」
- ・SHN-517「景色が良く人口密度が多すぎない」

強み② 「東京近接 × 田舎」の絶妙な立地バランス

【内容・含意】

「ちょうどいい田舎」は富士見町独自のブランド要素。
茅野市・原村・北杜市にはない「コンパクトな町中心+駅+東京特急アクセス」を体系的にPRする戦略が有効。

【代表的な声】

- ・SHN-232「都心まで近過ぎず、遠過ぎずの程よい距離」
- ・SHN-673「リトル東京のようで住み心地がよい」
- ・SHN-303「東京へのアクセスが良く自然と利便性のバランスがちょうどよい」

強み③ 中心部のコンパクトな生活インフラ(リトル東京)

【内容・含意】

富士見駅周辺は「コンパクトシティのお手本」として町外にもアピール可能。
一方で、この恩恵が中心部限定で、境・本郷・落合の周辺地区との格差が課題。

【代表的な声】

- ・SHN-673「JAや西友、図書館、富士見駅、病院、ドラッグストア全て徒歩圏内」
- ・SHN-119「役場、病院、スーパーがコンパクトにまとまっている」
- ・SHN-627「役場周辺は徒歩で公共施設に行ける」

強み④ 個性的な人材・ユニークな町づくり拠点の存在

【内容・含意】

「移住者×地元×行政」が緩やかにつながる独自の文化拠点が複数あり、これは全国的にも稀有。
これらのプレイヤーを「点」ではなく「面」として打ち出すことで、町全体のブランドを底上げできる。

【代表的な声】

- ・SHN-303「町長が移住者、森のオフィス、ひこうせんの子ども食堂、森の家ぽっち、唯一無二の町」
- ・SHN-625「町長が魅力的」

強み⑤ 災害リスクの低さと気候の安定性

【内容・含意】

近年の自然災害多発を背景に、「災害リスクの低さ」は移住・二拠点居住の重要な訴求軸。町としてこの強みを「明示的に発信」している事例は少なく、伸びしろが大きい。

【代表的な声】

- ・SHN-539「自然豊かで災害もなく安心して暮らせる」
- ・SHN-572「東日本大震災で被害を受け、娘家族のいる富士見に避難してきました」
- ・SHN-805「東海沖大地震…都会よりも地方の方が身の安全」

3. 政策提言につながる「課題」5点

課題①【最重要】「消極的定住者」が多く、次世代への定住理由が弱い

【内容・含意】

全体の約4分の1が「消極的定住」。この層は次世代に引き継がれず、自然減で必ず消失する。「家があるから住む」を「町が好きだから住む」に変える施策が、次期総合計画の最重要テーマ。
<対応> 子ども・若者世代への町の魅力体験プログラム / Uターン支援 / 地元愛着醸成教育

【代表的な声】

- ・SHN-23「家を建てたので住み続けるしかない」
- ・SHN-691「他に考えられない」
- ・SHN-721「今更どこに？あの世しかない」

課題② 高齢期の生活不安(車運転・買い物・通院・終活)

【内容・含意】

「移住者の終の棲家」を売りにしてきたが、高齢期インフラ(交通・医療・終活)が手薄。「終の棲家」のブランドが揺らぎつつある。
<対応> すずらん号・デマンド交通の本数増/合葬墓地・樹木葬の整備/高齢者向け生活支援拡充

【代表的な声】

- ・SHN-100「運転免許返納後の生活が成り立たない」
- ・SHN-581「公共の樹木葬…余命短いです」
- ・SHN-642「ひなたぼっこの人員拡充を」

課題③ 区・自治会の負担と運営の硬直性(改革要請最強領域)

【内容・含意】

現役世代・移住者の定住の最大障壁が区の仕組みになっている。「0か100か」の運営は若い世代を排除し、コミュニティ自体の弱体化を招く悪循環。
<対応> 区の統廃合(行政主導)/区費の透明化・会計開示/準会員等の多段階参加形態/役員負担の合理化

【代表的な声】

- ・SHN-333「区費年間4万円が高すぎ、会計開示なし」
- ・SHN-257「年8回の出払いに参加できない」
- ・SHN-408「区数が多すぎ、行政主導で統合を」

課題④ 子育て世代の負担(保育料・医療費・通学)? 隣接自治体との格差が深刻

【内容・含意】

「子育てに優しい町」を掲げながら、隣接自治体との比較で見劣りする現実。子育て世代の声は、定住意向にも直接響いている(住み続けたいが住み続けられない)。
<対応> 子ども医療費の完全無料化(原村・茅野水準)/未満児保育料引下げ/保育時間延長/スクールバス拡充

【代表的な声】

- ・SHN-164「未満児保育料6万円は周辺市町村に比べ高すぎ」
- ・SHN-248「医療費は原村・茅野市は無料、富士見は300円」
- ・SHN-236「保育園17時お迎えで共働きは厳しい」

課題⑤ 周辺地区(境・本郷・落合の一部)の生活利便性格差

【内容・含意】

「リトル東京」(富士見地区中心部)の便利さが、町全体のイメージを覆い隠している。

実際には地区によって生活利便性に大きな格差があり、

周辺地区の住民が「町に切り捨てられた感覚」を抱きつつある。

<対応>各地区の生活拠点整備/民間誘致/移動販売・買い物支援拡充/地区別予算配分の透明化

【代表的な声】

・SHN-675「境にも食料品店がほしい」

・SHN-566「何事も境方面は不便」

・SHN-467「広原区への扱いが悪い、水道料金高い、助成金対象外」

■ Part A 全体まとめ

富士見町の定住基盤は「自然・景観・東京近接・人の温かさ」という強い魅力で支えられている一方、

その下層には「消極的定住・高齢期不安・区負担・子育て格差・地区格差」という

5つの脆弱性が潜んでいる。

次期総合計画では、強み(自然・立地・人材・コンパクトシティ・災害安全性)を

維持・強化しつつ、5つの課題を着実に解消する戦略が求められる。

Part B: 自由記述(町全般への意見・要望)の分析

対象データ:246名分の自由回答

1. ポジティブ / ネガティブ / 提案 の3分類

分類	割合	主な内容
① ポジティブ(町への賛辞・肯定)	約8%	移住満足・町長への期待
② ネガティブ(批判・不満)	約25%	行政不信・区負担・分断
③ 提案・要望(具体的な政策案)	約60%	インフラ・教育・産業政策
④ 構造分析・俯瞰的意見	約7%	町の方向性・ビジョン論

【最大の特徴】自由記述の約60%が具体的な政策提案。住民が政策パートナーとして高い当事者意識を持っている。

① ポジティブ(町への賛辞・肯定) 約8%

【代表的な原文】

- ・SHN-529「いい町だと思っています。シニア世代も元気に暮らせています」
- ・SHN-780「渡辺町長、議員の方々に期待しております」
- ・SHN-646「新しいことにいろいろチャレンジして下さってありがとうございます」

② ネガティブ(批判・不満) 約25%

【行政・財政運営への根本的不信】

- ・SHN-601「立候補した時のころざしはどこへ」
- ・SHN-370「対話ばかりではまちづくりは進まない。理事者の決断が必要」
- ・SHN-602「アンケートにそのビジョンが見えない」

【役場職員・組織への厳しい目】

- ・SHN-522「役場職員のパワハラまがい…昭和から時代が止まったのか」
- ・SHN-598「人口減少しているのに職員が多過ぎる」
- ・SHN-638「人口減に伴う役場職員の削減、世襲を排除」

【移住者と地元の分断】

- ・SHN-285「移住者ばかり良い制度を策定すると大きな分断の町になる」
- ・SHN-266「移住者と元々住んでいる人との間に隔たり」

【区・自治会への構造的不満】

- ・SHN-333「区費が異常に高く、開示も拒否」
- ・SHN-406「区役多すぎて若者・移住者が定着しない」
- ・SHN-408「区数が多すぎ、行政主導で統合を」

③ 提案・要望(具体的な政策案) 約60%

【教育・子育て関連】

- ・町営保育園の無償化、ぼっちなどの認定支援(SHN-303)
- ・スクールバスの全町運行・小中ともに(SHN-134, 195, 252, 384, 421)
- ・富士見町オリジナルの魅力ある教育(SHN-303, 410)
- ・武道教育の推進(SHN-800)、給食費無料化(SHN-59)、医療費無料化(SHN-248)

【観光・産業・財源】

- ・町営製材所による町産木材ブランド化(SHN-510)
- ・無農薬・無化学肥料を町の農業ブランドに(SHN-313)
- ・アグリツーリズムの導入(SHN-298)
- ・もののけ姫の聖地化、おもちゃ美術館誘致(SHN-551, 799)
- ・冬の観光誘客(SHN-625)、企業・起業誘致(SHN-132, 220, 491, 769)

【交通・インフラ】

- ・すずらん号の本数増・土日運行・無料化(SHN-547, 580, 599)
- ・富士見駅エレベーター(SHN-374)、東口新設(SHN-778)
- ・特急停車本数増(SHN-734)、信濃境駅整備(SHN-283, 399)
- ・シェアカー・シェアサイクル(SHN-670)
- ・合併浄化槽による分散型インフラ(SHN-176)

【高齢者・福祉】

- ・公共合葬墓地・樹木葬(SHN-581, 703, 739)
- ・ペット同伴可能な高齢者施設(SHN-495)
- ・予防医療(SHN-493)、夫婦二人三脚制度(SHN-779)
- ・ひなたぼっこ等支援組織の人員拡充(SHN-642)

【地域コミュニティ・区の改革】

- ・区の統廃合(行政主導)(SHN-408)
- ・区費の透明化・会計開示(SHN-333)
- ・準会員・ライト会員の制度整備(SHN-257)
- ・移住者と地元の交流ハブ(SHN-285)

【環境・防災】

- ・メガソーラー禁止(SHN-193, 537, 663)
- ・町主導の山林整備・危険木対策(SHN-470, 772)
- ・災害時のリアルタイム情報発信(SHN-451)
- ・熊対策ゾーニング(SHN-337)、ゴミ袋多様化(SHN-474)

【DX・行政効率化】

- ・AI活用(SHN-397)、DX化(SHN-98, 197)
- ・役場職員の専門性育成・短期異動廃止(SHN-621, 806)

【生活利便】

- ・境・乙事への食料品店誘致(SHN-675, 698)
- ・書店の誘致(SHN-678)、赤ちゃん用品店(SHN-44)
- ・東京アクセス補助(SHN-462)

【文化・新しい試み】

- ・コンサートホール(SHN-648)、文化芸術振興(SHN-525)
- ・町営YouTube(SHN-625)、家族会議発展型(SHN-676)

④ 構造分析・俯瞰的意見 ?約7%

【代表的な原文】

- ・SHN-55「町の規模にあったダウンサイジング、今が転換期だ」
- ・SHN-58「年配方の意見を大衆の意見と勘違いせず、若者の意見を優先させてほしい」
- ・SHN-308「諏訪6市町村で唯一原村だけが人口を増やしている。富士見町と何が違うのか検証を」

2. 政策提言につながる「強み」5点

強み① 住民の政策提言力が極めて高い(全国でも稀有な町民資源)

【内容・含意】

自由記述の約60%が具体的な政策提案を含む。「町営製材所」「アグリツーリズム」など即実行可能な具体度のアイデア多数。
「家族会議」型の住民参加型行政と高い親和性を持つ。
この資源を活かす公式の場(政策提言会議・住民ワーキング)を制度化することで、職員の負荷軽減と政策の質向上が同時実現可能。

【代表的な声】

- ・自由記述の60%超が政策提案
- ・SHN-21「移住者は別荘を持てるくらい現役時代にスキルを培ってきた人材」

強み② 「町長・行政の改革姿勢」への期待値が高い

【内容・含意】

住民は変化を「歓迎する側」に回りつつある。
ただし「対話だけで進まない、決断が必要」という不満も同時に存在。
期待値が高い分、結果が出ないと急速に失望に転じるリスクも併せ持つ。

【代表的な声】

- ・SHN-780「渡辺町長、議員の方々に期待しております」
- ・SHN-625「町長が魅力的」
- ・SHN-98「DX、大胆な改革を進められる町なら住み続けたい」

強み③ 「自然×文化×アート」の融合可能性

【内容・含意】

「観光地ではない、暮らしの中の文化」が点在。これらを線で結ぶ施策に発展余地。
アートツーリズム・聖地観光などの切り口は競合自治体が少ない。

【代表的な声】

- ・SHN-525「文化芸術にも触れる機会を増やしてほしい」
- ・SHN-551「もののけ姫の聖地・井戸尻遺跡・尾崎喜八」
- ・SHN-648「コンサートホールがあったら良い」

強み④ 多様な住民層(地元・移住者・二拠点居住者)の存在

【内容・含意】

分断問題は確かにあるが、「多様性そのもの」は他自治体にはない強み。
対立軸ではなく協働の3層として位置づけ直すことで政策の幅が広がる。

【代表的な声】

- ・SHN-638「二拠点生活を経て富士見一拠点へ」
- ・SHN-21「移住者を活用した新ビジネス創出」

強み⑤ コンパクトな自治体規模ゆえの「届く政治」

【内容・含意】

人口14000人規模は「住民の顔と意見が見える行政」が可能。
「住民1人当たりへの政策密度」を最大化する戦略で、全国でも独自のポジションを確立できる。

【代表的な声】

- ・SHN-313「市民の声の届くコンパクトさも魅力」
- ・SHN-407「地方都市として魅力的な町」

3. 政策提言につながる「課題」5点(次期総合計画の優先事項)

課題① 【最重要】 行政のビジョン不在感と「対話 → 決断」への移行

【内容・含意】

「家族会議」=対話重視の姿勢は評価される一方、住民は次のステップとして「決断と実行」を求めている。
期待値が高い分、「対話のための対話」に陥ると急速に信頼を失うリスク。
<対応>政策パッケージの明示/ロードマップ提示/5・10・20年後の数値ビジョン公表

【代表的な声】

- ・SHN-115「都市計画ビジョンの明確化」
- ・SHN-602「アンケートにそのビジョンが見えない」
- ・SHN-370「対話ばかりではまちづくりは進まない」

課題② 役場の組織改革・職員のあり方(構造課題)

【内容・含意】

人口減少局面で「役場の規模・人員構成・働き方」が時代に合っていないという指摘が複数ルートから来ている。DX・専門職育成・待遇改革を一体で進めないと、住民の不信が拡大するフェーズ。
<対応>人員適正化計画の策定・公表/DX推進体制強化/専門職キャリアパス整備/待遇研修の制度化

【代表的な声】

- ・SHN-311「人員配置の見直し・人件費削減」
- ・SHN-621「短期異動ではなくプロを育てる」
- ・SHN-397「AI活用ガイドラインの整備」

課題③ 区・自治会の構造改革(住民負担の抜本的見直し)

【内容・含意】

区は法的には任意団体だが、実質的に行政の下請け機関として機能してきた。この構造が現役世代・移住者の定住の最大障壁となっている。「区を残しつつ負担を下げる」だけでは限界で、「行政が引き取るべき機能の整理」が必要な段階。
<対応>区の機能棚卸し/区数の統廃合議論/区費透明化指針/会員制度の標準化

【代表的な声】

- ・SHN-408「区数が多すぎ、行政主導で統合を」
- ・SHN-333「区費年間4万円・会計開示なし」
- ・SHN-257「0/100運営の見直し」

課題④ 子育て・教育環境の隣接自治体との格差解消

【内容・含意】

子育て世帯にとって富士見町は「移住先候補から外れる」リスクがある。原村が人口増を実現している現実、富士見町の子育て政策が劣後している証左。
<対応>子ども医療費無料化/未満児保育料引き下げ/保育時間延長/スクールバス拡充/隣接自治体との比較ベンチマーク常時公表

【代表的な声】

- ・SHN-164「未満児保育料6万円は高すぎ」
- ・SHN-248「医療費は原村・茅野市は無料」
- ・SHN-308「原村だけが人口増、富士見との違いを検証すべき」

課題⑤ 景観・自然資源の保全(メガソーラー・山林荒廃への対応)

【内容・含意】

富士見町の最大の強み(自然・景観)は、放っておくと毀損される。保全 = 攻めの政策(景観条例・町営製材所など)を打ち出すことで、「強み?課題」の関係を「強み?資源活用」に転換できる。
<対応>大規模太陽光発電施設の規制条例/町営製材所/山林整備補助金強化/空き家・放置農地活用制度

【代表的な声】

- ・SHN-537「メガソーラー禁止」
- ・SHN-510「町営製材所による町産木材ブランド化」
- ・SHN-470「危険木対策」

■ Part B 全体まとめ

自由記述は「不満の表明」ではなく「政策提言の宝庫」。
住民は当事者意識を持って具体的アイデアを多数寄せており、これは富士見町の最大の隠れた資源。

一方で、「対話 → 決断 → 実行」のサイクルが見えないことへの不満が強まっており、次期総合計画では「政策パッケージとロードマップの明示」が最優先課題となる。

5つの構造課題:

1. 行政のビジョン明示と決断力
2. 役場組織のDX・専門化・待遇改革
3. 区・自治会の抜本的構造改革
4. 子育て政策の隣接自治体水準への引き上げ
5. 景観・自然資源の保全と活用

これらは相互に関連しており、個別施策ではなくパッケージとして実行することで効果が最大化する。